

2005年 9月議会 防災対策は万全か

地球温暖化がすすむ中、災害には比較的、縁のないといわれている岡山市ではありますが、そのことがしだいに過去のものとなっているのではないのでしょうか。昨年は、台風16号、18号、21号、23の襲来にみまわれまして、甚大な被害が発生しました。議会でも多くの議員が登壇されました。

今年度、本議会において、市長職務代理者から、報告がありましたように、同報系デジタル防災行政無線設備の充実、可搬式ポンプの購入などで、かなり、備えをしていただきました。それでも、先日、北九州に上陸した台風14号は、9月9日現在で、床上浸水2棟、床下浸水24棟、人的被害9名という結果になりました。台風が岡山市にちかづいてきた日の夜、満潮時近くに、阿津方面を走ってみましたが、普段は何の変哲もないおだやかな児島湾が、暴風雨で高潮と大荒れで、今にも、堤防を越えて、人家に浸水するのではないかというような様子でした。非難警報が出たと聞きましたので、皆さんは非難しておられたのだと思いますが、自然災害の恐ろしさを知る思いでした。今後、高潮対策は大きな課題です。災害対策基本法にも明記されているように、災害対策の基本は災害から住民のいのちとくらしを守ることが最優先の課題にならなければなりません。その観点で、質問をさせていただきます。

- 1、 京大名誉教授の奥田節夫氏の研究によりますと、最近、沿岸住民から満潮位がここ10年ほどの間に30cm近く上昇したという話を聞くことがある。昨年の台風では、高潮の際の最大潮位の発生時に記録される潮位と平常時の潮の干満による潮位の差が130cm程度に達している。これに、温暖化による海水面の上昇は海岸災害を激化させる可能性があり、今後、実態追跡調査と原因究明に基づく対策の検討がいとわれています。高潮の実態調査はされていますか。されているのでしたらその結果をお示しく下さい。されていないのなら、実態調査をお願いしますがいかがでしょうか。
- 2、 潮位が上がっていると、堤防や護岸の見直しがせまられています。県は見直し計画をすすめる方針だと聞いております。
小串から玉野市に入った相引きから番田に向かう海岸の堤防はかなり高くなっており、04年、16号台風時にも充分高潮を防ぐことのできた堤防です。奥田氏は「海岸沿いの防災対策と景観や生態系の保全対策との調和が重要な課題である」と述べられておられますが当局はどのようにお考えでしょうか。

3、ハザード・マップについて。

ア、平常時の災害予防策として、住んでいる地域の特性、被災弱者といわれるお年より・子どもをとくに安全に非難させるための特別優先避難所や避難所への経路を認知しておく必要があります。そのためにも、ハザードマップは必ず必要があります。6月議会で、竹永議員が詳しく質問をしていますが、その結果「地域防災マップ作成支援」事業を立ち上げられていますが、現在何箇所で作成していますか。また、この事業で、防災対策は充分でしょうか。

イ、この「地域防災マップ作成支援事業」について、作成する「自主防災会」は8月末で230組織になったと報告されましたが、それでも市内全ての町内会で網羅したわけではなく、その自主防災会でとりくむ地域のためのマップですから、当然、マップのない地域が圧倒的ではないでしょうか。自主防災会のない地域、あるいは、マップの作成しない地域はどうされようとしていますか。

ウ、岡山市のホーム・ページ「こちら岡山防災情報」を検索しますと「防災・災害情報」が情報収集できるしくみになっています。避難所や被災地ばかりでなく、土石流危険渓流や、急傾斜地もすんでいる場所からどのくらいの距離のところにあるかまでもわかる仕組みになっています。しかし、パソコンのない人にはその情報を受けることができません。

情報を享受できるのは市民の中で少数、圧倒的な方が知ることができません。倉敷市では、「我が家の防災マニュアル」を作成し、全戸配布しております。災害時にどう備えるかというマニュアルと同時に広域避難場所、避難場所、土石流危険渓流、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所が人目でわかる地図も添付されています。せめてこれぐらいのもの市民に提供すべきだと考えますが、御所見をお聞かせください。

3、 教育長にお尋ねします。

災害に備える心構えとして、学校教育の場を通じて「防災教育」が根気よく行われていくことが、必要であると思われませんが、どのようにされていますか。あるいはどのようにされるおつもりでしょうか。